

群馬県北部地域におけるニホンジカの食性変化

姉崎智子（群馬県立自然史博物館）

はじめに

近年、日本各地でニホンジカ（以下、シカ）の生息範囲が拡大傾向にあり、森林生態系への負の影響が懸念されている。群馬県においても西部地域を中心に森林植生の衰退が顕在化しており、北部地域においても拡大傾向にあることが指摘されており、シカの食性にも変化が生じている可能性が予測される。このため、本研究では、群馬県北部地域におけるシカの食性について明らかにすることを目的とした。

資料と方法

今回分析の対象としたのは、群馬県片品村大清水周辺において 2013 年度から 2015 年度度の春季、秋・冬季に捕獲されたシカ 525 体である。食性については、第 1 胃から採取した胃内容物を 1mm メッシュのふるいで流水洗浄した後、ポイントフレーム法を用いて、各食物カテゴリーの割合を算出した。また、出現した植物については可能なかぎり種同定を行った。

結果と考察

群馬県片品村大清水周辺で捕獲されたシカの食性は、春季についてみると、2013 年度から 2015 年度にかけてササの割合に増加が認められる一方、ササ以外のカテゴリーが占める割合に減少が認められた。また、確認された食物カテゴリー数については、2015 年度に大きな減少が確認された。秋・冬季については、ササの割合と、それ以外のカテゴリーが占める割合に大きな年変動が認められたが、2015 年度における食物カテゴリー数の減少については、春季と共通していた。

当該地域においては春季、秋・冬季ともにササ類が重要な食糧資源であり、環境省の自然環境保全基礎調査によると（環境省, 1986; 環境省第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査食性調査情報提供ホームページ）当該地域周辺はチシマザサ・ブナ群落が含まれるため生息域や移動経路等において採食可能な食物を採食していることが推察されるが、食物カテゴリー数の減少は、森林植生の衰退を反映している可能性があり示唆的である。冬季の食性として堅果類、液果類が含まれる傾向は群馬県赤城山のシカの食性と共通しており、その年の利用可能性（アベイラビリティ）によって構成要素が年変動することが確認された。

引用

環境省第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査食性調査情報提供ホームページ

http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html（2016 年 12 月 8 日確認）

キーワード：群馬県北部、ニホンジカ、*Cervus nipon*、胃内容物、食性